

第一話 竜馬誕生秘話(一)

私は戦前、京都の鴨川にかかる四条大橋の近くの近江屋の跡を訪れたことがあります。

竜馬が慶応三年一月一五日に暗殺された土蔵のこの家は、京都風に天井が低く、惨劇の日、最初の刺客によって斬られた下僕の藤吉が倒れた二階への階段は昼でも暗い土間の片隅にあつて、なんとなく陰惨な空気が漂っていました。そして階段の上の方から「ほたえな！」と怒鳴った竜馬の声が今にも聞こえそうな錯覚を感じたのです。

当時、二階で密談を交わしていた竜馬や中岡には、油断があつたと言わざるを得ません。刺客が襖を蹴破って部屋に侵入してきた時、そこには正眼に構えた一分の隙もない竜馬の剣が光っていた、、、。と言うのが北辰一刀流の使い手、剣豪としての竜馬のイメージですが、現実にはなかなかそうは行かないようです。

日本の近代化の為に努力し、志なかばで凶刃に倒れた竜馬は天保六年一月一五日、今の上町二丁目で生まれました。

この竜馬の生家は昭和二〇年七月の大空襲で焼失しましたが、私が近くの第四小学校に通っている時、その隣で生まれたとという学友がいて、度々遊びに行った事を覚えていますが、その頃竜馬の生まれた家は、がらんとした空家になっていて、恐れ多くも私たちは竜馬先生の生家らしき家で鬼ごっこをして、ほたえて（騒いで）いたのです。

天保六年（一八三五年）十一月、竜馬の誕生した頃の上町は騒然としていました。巷の人々は暮れかかった夕空を仰ぎ、指さしながらあれよあれよ慌てふためき、子供らは恐怖のため顔面蒼白となって泣き叫んだり、家に走り込んだりしているのです。「一体何事が起こったのか？」それはまるで浦戸湾に黒船が現れた様な騒ぎでありました。